

日本聖公会  
**ウィリアムス  
 神学館ニュース**

吉田先生と神様に感謝

主教 高地 敬

1995年から7年間、私はウィリアムス神学館で主事をしておりました。その前半は森紀旦司祭が専任の館長でありました。元々北関東教区の出身で聖公会神学院の校長もなされ、その後、京都にお出でいただいたのでした。森館長は中部教区の主教に選出され、転出されました。名古屋での主教按手式にはもちろん参りました。3年ほどの関わりでしたが、とても寂しく感じました。

2002年からは吉田雅人司祭が専任の館長でありました。神戸教区からお出でいただいたのですが、京都教区のさまざまな教会の主日礼拝の応援もたくさんお願いいたしました。15年にわたって館長としてお勤めいただき、礼拝学を中心に担当され、神学館のさまざまな部分の整備もしていただきました。また、多くの課題について一緒に悩み、その都度、解決へと進めていくってくださいました。その誠実で行動力のあるお人柄に触

2017年  
 第98号

The Bishop Williams  
 Theological  
 Seminary NEWS  
 日本聖公会  
 京都教区  
 発行・編集人  
 黒田裕  
 〒602-8011  
 京都市上京区烏丸通  
 下立売上る桜鶴門町380  
 ☎ 075(431)5406  
 FAX 075(431)5445  
 Williams@muc.  
 biglobe.ne.jp  
 寮 ☎ 075(431)5408

れ、多くの人がゆったり安心したのではないでしようか。

吉田館長は、この夏に東北教区の主教に選出され、11月30日に主教按手式・着座式が仙台で行われました。大勢の人が礼拝に参加し、新しい主教の誕生をお祝いし、新しく教区主教が与えられた東北教区の喜びを共にいたしました。ただ、神学館にとりましては長く館長であった方が他所に行ってしまった。12月2日ウィリアムス神学館関係逝去者記念聖餐式の説教にお出でくださった中村豊主教様が礼拝前に、「ぼっかり穴が開いたようだ」と言っておられました。全くその通り、とても寂しい、頼りないような感じですが、必ずそこにいた人、いるべき人がいない。

森館長も吉田館長も、教区主教に選ばれるべくして選ばれたのですが、大切な方を他所に送り出すとき、その後何度でも会えると分かっている、少なからず気持ち重たくなり、喪失感があります。今回も自分勝手に感傷的になり主教按手式の最中に喪失感を味わっておりました。このような穴は人生のいろんな場面で

出現するものですが、多くの場合、その後には新しい展開が訪れます。12月1日に黒田裕司祭が新しい館長に就任されました。神学館に関わる者も神学生も、お互いに新しい体制に少しずつ慣れて、穴を埋める以上のより一層の働きへと進むことができると願っております。吉田新主教の働きのため、また黒田新館長の働きのためお祈りいただければ幸いです。

（こうちたかし 本館理事長 キリシア語担当）

吉田雅人前館長のこれまでの働きに謝意を表しますとともに東北教区主教ご就任を心からお祝い申し上げます。

他方、巻頭言にあるように「わたしたちの館長が突然取り上げられてしまった」という感も否めない。わたしの神学館との関わりは12年程になるが、とくに2009年からは副館長として吉田先生のもとで働かせていただいた。ある時、会話の流れでわたしが「吉田先生がわたしの上司なので」と言うと、先生はにこやかに「上司なんて思っていないよ。同業者だよ。」と仰った。この通り普段からよく先生は、聖職の權威主義を戒められ、謙虚であるよう神学生たちに語りかかせていた。この背後にフィリ2・6と8を見つつ、これが先生の教えに通底する「道」であったといま思う。やはり寂しさに留まりたくなる。しかしふいに「ガラヤヤの人たち、なぜ天を見上げているのか。」（使1・11）とのみ言葉が浮かんだ。喪失の彼方を見つめてばかりいないで、足もつまりキリストという「道」に目を転じて、その道を神学生たちと共に往こう。

（館長 黒田 裕）

## 東北教区主教按手式

今回、私と仲宗根遼介聖職候補生の二人で、11月30日(木)に東北教区主教座聖堂仙台基督教会で行われた、第8代東北教区主教按手式(司式..ナタナエル植松誠、日本聖公会首座主教、説教..ステパノ高地、京都教区主教)に出席してきました。当日は、平日にも拘わらず多くの出席者で礼拝堂が埋め尽くされていました。特に、吉田主教の出身である神戸教区や、神学館館長時代に親交を深められた京都教区の方々、神学館の先生方や卒業生が全国から来られていたことが印象的でした。そして、厳かで暖かな雰囲気の中で按手された吉田主教の姿を見て、東北教区の新たなスタートに立ち会えたことを大変嬉しく思いました。

今回の按手式に出席した中で印象的だったことが二つあります。一つ目は、吉田主教の就任の挨拶です。吉田主教は、ウィリアムス神学館の館長であった当時から、「仕えられるのではなく、仕える人になってほしい。」「謙虚に、誠実に」という言葉を、私たち学生に事あるごとに投げかけてくださっていました。挨拶の中でもそのことに触れられ、東北教区で今度は自分が誠実に、謙虚に人に仕えながら、神の宣教に参与していきたいと述べられていました。もちろん、就任に関する挨拶ですので、自らの抱負であったとは思いますが、しかし、同時に

私たち学生に向けての激励のようにも感じ、身の引き締まる思いでした。

そして、二つ目は東北教区の信徒の方が、私たち二人に声を掛けてくださったことです。按手式も終わり、礼拝堂の外に出ようとしていた時に、「ウィリアムス神学館の神学生さんですか。」と声をかけてくださいました。その方は私たちに、「学期の途中で館長が変わって大変と思いますが、お許しください。でも、私たちは吉田主教を大切に支えていくので、安心してください。」と、話してくださいました。本来、新たな主教が按手されたことはとても喜ばしいことのはずですが、やはり寂しさがありました。けれどその時、新たな主教が無事按手されることを心から祈っていた人と出会っていることに気が付きました。そしてその方とのわずかな会話を通して、吉田主教と東北教区が新たな歩みを始めたことを実感することができました。

最後になりますが、これまでもいつも親身に私たちのことを思ってください。熱心に指導してください。吉田主教に心から感謝したいと思



ます。そして、吉田主教が自らの召命に従って、東北の地に赴かれたように、私たちも日々自らの召命を問いつながら、人々に仕える人になる為に、ウィリアムス神学館での学びを「謙虚に、誠実に」続けていきたいと思

(神戸教区 聖職候補生 永野 拓也)

## 新館長任命式

教会の牧師は主教人事によって変わることもある。神学館の館長も当然変わることもある。その時が2017年12月1日だった。京都教区高地敬主教により副館長黒田裕司祭が館長に任命された。前館長の吉田雅人司祭は、東北教区主教按手のために10日ほど前に出発されていた。特別な送別セレモニーを持たずに淡々と日々の礼拝を行い、東北へ向かわれた。神学館の小さなチャペルで館長に任命された黒田司祭も、淡々と礼拝を守り淡々と任命式が行われた。使い馴染んだ聖書と祈り書、日本聖公会法憲法規、そして神学館の鍵。これらが一つ一つ高地主教より手渡され「この地でのわたしとあなたの務めをしるしとしない」と言い渡された。黒田新館長は「常にみ言葉を宣へ、聖職を行い、ゆだねられた神学生を奉仕職の道に進ませることができま

すように。(前後略)」と祈られ、新館長により昼の礼拝の司式が引き継がれ、新館長の



もとしてウイリアムス神学館が歩み始めた。建学の精神である「道を伝えて、己を伝えず」の通り、館長の属人性に影響を受けること無く、前館長から新館長へ静かに丁寧に変わった。そして、

新館長黒田裕司祭の献身により、常に変わり続けていくウイリアムス神学館。変わらぬに常に変わり続ける、生きた信仰を育む神学教育をよく表している館長任命式であった。

(神戸教区神学生 宮田裕三)

## 体験入学

10月10日(火)〜12日(木)までの3日間、ウイリアムス神学館体験入学をおこないました。今回は2名の方が参加くださいました。

――――

私が体験入学を希望したのは、教会でチラシを見たからです。2泊3日の内容を見て、

土屋 郁子

朝一から主に礼拝を捧げ、一日中聖書と教会奉仕等を学び、神に祈る環境の中で過ごす事を切望したからです。実際には予想以上に主から色々な恵みを頂き感謝しました。又、主に身を献げておられる神学生と館長と副館長の7人と一時ですが交わりを持たれたことは、人生の中で大切な思い出です。体験では4回の授業に参加し、中でも印象的だったのは教会音楽の授業で、辻先生の音楽に対するご熱意が伝わり自分が(大昔ですけど)学生に戻ったようで楽しかったです。もう一つ特に楽しく学ばせて頂いたのは「聖書研究」の授業で各自が聖書解釈において各々意見を言い皆で考えた事が有意義で恵みでした。

将来、牧師という仕事に興味のある方、また神学館でどんな学びや体験をして司祭になれるのかを実際に知りたい方は、是非、この入学体験の参加をお勧めします。いつもの教会生活とはまた違った主からの贈り物が必ずあります。

ところで私は牧師の仕事をする気があるかですが、入学体験の申し込みをする時点から牧師の仕事を意識しておりました。そしてウイリアムス神学館の体験を通し私が牧師の仕事をする事を主が望んでおられるのではないかと、主が導いてくださるのではないかという思いが強くなっていきました。今現在は主が私に与えられた悩みの時です。その恵みに感謝しながら自分の思い煩いを聞いて頂き、祈っていきたく思っております。

(つちやいくこ 鴨川聖フランシス教会)

主の聖名を賛美いたします。

富田 学誠

今年度のウイリアムス神学館体験入学に参加させていただいたことは、単に神学校を見学するだけでは得ることのできない、まさに霊的体験に溢れた恵みの時でした。オリエンテーションで神学館の歴史を知ることから始まり、神学館での学びの時や共同生活のさまざまな場面を通して、私を感じ続けていたのは、神学館は聖職者養成の場である以前に、祈りの館であるということでした。しかしそれは、清貧としてただ静けさが支配するようなものではなく、そこに集う人々が、聖書を学び、祈りの中で神との対話を通し、より人間らしくされていくこと、心躍るような躍動感に満ちた空気が生まれる場所でした。

神学校での学びに加わるということは、神からの召命はもちろんのこと、余程の確固とした目的と揺るがない決意とがあつてこそ成立するものなのであると、神学館を訪れる前にはそのように考えていました。しかし実際は、神学生の方々だけでなく、そこで教えておられる教授陣の一人ひとりが、それぞれに異なる今という時に立ちながらも、福音宣教という働きのビジョンがなおもおだやかに形成され続け、あるいは日々新たにされていく、神学校での生活とはまさに、召命を求め続ける永い航海なのだということを教えていただきました。また生活を共にする旅の友が航海の船友となり、神学館での共同生活は、

聖職として現場へ派遣されてからの大きな礎となる大切な時間であることも学ぶことができました。

皆さまも多忙にも関わらず設けてくださった交わりの時、20代から60代という幅広い年代、あるいは神学生と聖職者という立場の違いを超えて、神学館のみなさんが、神さまとの繋がり、聖職の道へ歩みを踏み出した経緯、聖職を志す中で不安や悩みなど、さまざまにその信仰生活を分かち合ってください。そこには、心から感謝しています。

神学館の生活で最も印象的だったのは、礼拝後の「霊的読書」の時間が設けられていることです。「霊的読書」がどういったものなのか、当初全く知らなかったのですが、体験期間中に二度の霊的読書の機会が与えられました。礼拝のあと、神学生によって朗読される言葉に耳を傾け、沈黙の時をもつ。自らの心が露にされ、聖霊によって満たされていく、神の前で自身と向き合うことを通して、言葉では言い表し難い、正に霊的体験をすることができました。体験を終えて帰宅してから、折に触れて夕の祈りのあと、霊的読書の時間を持つようにしています。

ある神学生は、「神学校は大変だけれど、ほんとうに多くの方々の祈りによって支えられているからこそ、感謝を持って神学生生活を送ることができる。」と語っていらっしやいました。またある司祭は、これから聖職への道を踏み出そうとしている私に、とてもインサイトに溢れた言葉を贈ってくださいました。

いつの日か、温かく体験入学生として迎えてくださった神学館の仲間の皆さんと、共に主の御用のために働くことができる日を築きみにしつつ、ウイリアムス神学館での皆さまの生活に豊かな祝福がありますように、お祈りしています。在主

(とみた がくし 高槻聖マリヤ教会)

## 神学館の2学期

- ☆9月3日(日)、入寮日
- ☆9月4日(月)～8日(金)、  
夏期実習(和歌山・愛の園)
- ☆9月8日(金)、リトリート
- ☆9月10日(日)、他教派礼拝出席
- ☆9月12日(火)、二期授業開始
- ☆9月16日(土)、

教会実習開始(1年生)

- ☆9月17日(日)、教会実習開始(2・3年生)

- ☆10月10日(火)～12日(木)、

体験入学(講師・出口崇司祭)

- ☆10月30日(月)～11月3日(金)、リセス

- ☆11月2日(木)、神学館ニュース発行

- ☆12月2日(土)、ウイリアムス神学館関係

逝去者記念聖餐式(説教・中村豊主教)

- ☆12月5日(火)～9日(土)、

試験・レポート提出期間

- ☆12月10日(日)、二学期教会実習終了

- ☆12月12日(火)～13日(水)、補講・面接

- ☆12月14日(木)、二学期終業礼拝

- ☆12月16日(土)、出寮日

## 二〇一八年度 ウイリアムス神学館入学試験

左記のように2018年度ウイリアムス神学館の入学試験(本科生・伝道師養成コース)を行います。お問い合わせは神学館まで。(075-431-5406)

入学願書および添付書類につきましては、神学館か所属教会の牧師にお尋ねください。

\*試験日時 2018年2月6日(火)

\*試験科目 聖書内容・英語・

国語現代文・面接

\*願書締切 2018年1月25日(金)必着

## ウイリアムス神学館第12号

ウイリアムス神学館紀要「ウイリアムス第12号」発行いたしました。

ご希望の方はウイリアムス神学館までご連絡ください

